

座談会：学力低下について

ゆとり教育や学校週5日制が導入されてから、生徒の学力低下を指摘する声が絶えません。では、どのように学力低下しているのでしょうか？生徒や教育のどんな点が問題なのでしょうか？そして、本当に学力低下しているのでしょうか？そんなことが話題にのぼりました。その時の雑談の様子を再現してみました。

私たちが感じる学力低下とは？

- α ：私は困難校に長い間いたのですが、毎年出来なくなってきました。学力検査の平均点は、あまり変わっていないのですが…。今年異動した進学校でも、周りの先生方はレベルが落ちていると言いますね。現任校では、応用問題が出来なくなってきたのかなと感じました。こうやればこう解けるという教科書の例題があつて、それに沿った練習問題は解けるのですが、ちょっと捻られると全く分からない。1, 2週間その内容をやっていると、すっかり忘れていきますね。
- β ：公立学校に限ったことなのか、私立学校も含めたことなのか分かりませんが、少なくとも公立学校について考えれば、どの学校においても全体的に学力は低下しているのではないのでしょうか。低下しているとはどういうことなのかと考えると、生徒の知識力や計算力とかはそんなに変わっていないと思いますね。だけど、考えようとしなくなっているというのは事実だと思います。携帯電話やパソコンを扱うようなマニュアルがあればやるけれども、そのマニュアルを考えるというレベルのものが出来なくなっている。計算問題だったらいくらでも取り組むけど、応用問題を自分で考える、つまり0から作り上げていかなければならないという部分は取り組むことを拒否しちゃっている。きっかけを何か少しでも与えてやらないと、取り組めない。そういう部分を、皆が学力低下と感じているのではないかな。個々に能力が落ちているかということ、そんなことは無いと思う。

学力低下は見る人によって違う？

- γ ：反復する計算力のようなものは大して変わっていないか伸びているかもしれないけど、表現する能力や論理的な思考力とか自分で作り上げていくものが落ちているということかな？
- δ ：そうですね。計算して答えを求めるというのは、そんなに変わっていないと思う。
- γ ：数学の教員として求めているのは、そういう能力ですか？
- δ ：解答の流れであるとか、思考力に関することですね。
- γ ：それって本当に数学の先生が皆求めていることかということ、例えば今の読解力とか表現力って、ある先生に言わせたら、国語で読解力とかやっているのだから数学でそんなことをやらせる必要は無いじゃないかという人もいるわけですよ。だけど、数学の教員としても、読解力とか表現力とか論理的思考力とかを付けさせたいということですよ。本当にそういう力を付けさせる授業をやっているのか、そして周りの先生方はそういうものを本当に求めているのだろうか。目的によって、学力低下というものが人によって違ってくる気がしてしまう。単に計算だけをやらせる先生にとっては、学力低下とは計算力が落ちていることなのかもしれない。

考える余地が無くなっている生徒

- γ ：昔よりも、お受験と言われるような小学生や中学生の受験競争が過激になっていますね。塾にどんどん通わせているのだから、勉強をそれだけ沢山しているは

ずじゃないですか。勉強時間が長いのに、学力低下しているっておかしいですよ。

β : 与えられるものが多過ぎるから、自分で考える余地が無くなっているんですよ。おとなしく待っていれば与えられるから、それを覚えるだけで、自分で作り上げていこうという部分が無い。そういう学習が勉強だと勘違いしている。考え方はいいから、解き方を教えてくれという生徒が多い。例えば10問の問題があれば、10問の問題と答えが1対1対応なんですよ。1問の解き方を覚えれば、10問解けるはずなのに、10問覚えないと気が済まない。生徒は覚えるための努力をすごくしますね。

δ : 以前は何でも教えてあげれば出来るようになると思っていただけ、自分でやるようになって面白さを見つけてくれればいいかな、というのを目指そうとはしているのですが。

β : 今の生徒は、与えられるのが当たり前だという感覚の中でずっと育って来ているから、やってごらんと言うだけでは駄目なんでしょうね。先生たちが手取り足取りしてあげないと、生徒からも保護者からも評価されないというのがありますね。塾に行けばそういうふうに教えてもらえる。それを生徒も保護者も当たり前だと思っている。教員がそうじゃない思いながらも、そうしないといけないような社会構造が出来上がってしまっている。でも何だかんだ言っても、ものは与えていますよ。結局、ノルマがあつて時間は無いわけで、しょうがないからやってしまふというところがありますね。

γ : 授業の時間が無いんですよ。ある程度のところは「だーつ」と全部与えて、その後時間をあげるから考えてみなさい、とやりたいんですけどね。

教わっただけで全部出来ると思っている生徒や保護者

β : 授業に座っているだけで、全部出来ると思っている生徒や保護者が多いよね。

γ : 塾に行かせる感覚も同じなんでしょうね。そうじゃないですよ。予備校に通っている生徒は、行っているだけで安心してしまっている。予備校は確かにいい教え方の部分もある。学校とはちょっと別な教え方をしている。予備校で学んだことも自分のものにしないと駄目だよって、生徒には言っています。自分でやり直さなければいけない。学力低下って、そういう部分があるのではないだろうか。教えている側も教えたという錯覚があるのかもしれないし、教わっている側も分かったという錯覚があるのかもしれない。きつと今までと違って、ゆとりの時間と言いながらも、時間にゆとりが無いから、生徒が自分の頭の中で学んだことを熟成させてもう一回反復する時間が無いのでしょうね。だから、分かったつもりになっているだけかもしれません。いざやれって言おうと、何もそれが出せないのかもしれない。

ショートカットばかり教えている教員

β : これはこうだからこう覚えなさいと、ショートカット¹を教える教員の方が人気がある。試験で点数が取れるから、途中なんかいいからと…。

γ : 塾もそのパターンですよ。

β : 塾って、点数という結果ですからね。どんなにいい教え方をして、どんなに生徒に力を付けたって、有名大学に受かりましたという実績が無いと塾は潰れてしまうから、全部ショートカットを教える。

¹理解の過程を省略して、結論だけを覚えること。

ショートカットを教われれば点数が取れるから、生徒にとって何が学力向上のバロメータなのかというと、テストの点数だけなんです。テストの点数が取れていることが、分かっていることだと勘違いしている。大人の側も生徒に勘違いさせているわけで、教員でもそういう勘違いをしている場合もあるかもしれません。

どうやって学力を定義し、測るか？

- γ：学力とはすぐに答えを出せるとか大学入試問題で良い点数が取れることであるとしたら、そして、学力を測る基準とは点数という結果であるとしたら、学力低下問題自体が誤解かもしれないですね。入試で思考力を本当に測れているのか、怪しいかもしれませんし。
- δ：私たちが作る定期テストでも、思考力を試す問題ってあまり出していないですよね。
- γ：思考力を試すテストをやっていないとしたら、学力低下なんて誰も言えないんじゃないですか。「どうやって測っているの？」と疑問に思いますけど。
- ε：結局、それは授業の感想でしかないけど、テストで思考力を試すのは難しいですね。
- γ：確かに学力低下というのを、錯覚ではなくて感じているのかもしれない。マスコミが報道するような、過大で極端な学力低下があるのかというと、私は錯覚の部分もあるのではないかという気がしています。確かに低下はしているけれど、学力というものの定義と学力をどうやって測っているかに、ずれがあるのではないかな。「本当に落ちているよ」と言われると、私は「本当に測っているのか？」という疑問を投げかけたいですね。

生徒の生きる力が低下している！？

- γ：100 マス計算の陰山先生が、「生徒の体力的なもの、生きる力が低下してきていて

いることで、学力がある程度低下してきているのではないか」と言っています。コンビニができて子どもが夜型になったこと、睡眠不足になっていることも関係しているかもしれないし、生活習慣のことまで言っていますが、どこまで関連しているかは分からないです。批判は沢山あると思いますがね。

- α：生徒の生活の仕方がすごく悪くなったというか、挨拶も出来ない、周りのことを考えられない。学校とか勉強に対しての執着心のようなものが無くなってきているなと感じています。それが学力にも繋がっているのではないかという気がします。
- β：生への執着を、今の生徒たちは無くしているのかな。知識としては幾らでも入ってきて困ることはないけど、そこから先を考えて何か執着していこうという部分が無くても生きていけるから。物が無い時代に生きてきた大人は、「もっとしっかり生きてくれよ」というような感じで、学力低下と感じてきているのではないかな。
- ε：学力低下って、意欲低下なんですよ。能力は落ちていないんですよね。
- γ：やる気を出さなくても生きて行けるんだよね。そこが一番の問題なのかも。
- β：大人たちが生きる力を削いでいる。子どもたちは、「自分に何が出来るの？」って考えている。若い人でも、新しく何か出来ることを見つけて、輝いている人は一杯いる。でも、その何十倍もの多くの若者は、そういう部分を削がれてしまっている。「自分はどこを向いて歩いていけばいいんだ？」ってことで、勢いとか生きる力が無くなっている。それか、「何でも与えられるものだ」というふうな、完全に甘えきっているかのどちらかではないかな。

問いかけが返ってこない生徒

- γ : 問いかけが返ってこないというのが、すごく気になっているんですよ。授業で、「この答えは何?」と言ったらパッと返ってくるけど、「これについてどう考える?」と言うと何も返ってこない。以前は、もっと色々返ってきて面白かったのですが。最近、返事が無くて「しーん」としていても不快じゃないという感覚らしい。
- β : 自分の世界に入っていて、その世界の中で満足していればそれで良いから、「他が何を考えようが周りとはコミュニケーションが取れようが取れまいが関係ない」という感覚の生徒が多くなっているのかな。

話を聞けない生徒

- δ : 今の生徒には、集団生活における大事な部分が欠落していると思います。個々に話しかければ聞くというのは崩れていないけど、全体に話している時に自分には関係ないと思うと話を聞かない。話を聞けない子たちになっていると感じますね。
- γ : 何で聞けない子たちになってきているのかな。授業で対話したいでしょ。よくチョークアンドトークばかりではいけないと言われるけど、そうじゃない授業としての一つの解決策は対話だと思うんですよね。生徒の方からきちんと返ってくる、双方向のコミュニケーションがあることかな。そういうコミュニケーションを作るためには、どうしたらいいですかね。
- ε : わざわざ学校に来て集団で授業を受けるのは、言語を使ってお互いコミュニケーションして、その教科の言語を身に付けることが目的ではないかな。数学Aの図形と論理の授業では、生徒と一緒に一つの証明を作り上げていく対話型の授業が出来て、言葉を教えるってこういうことだなと感じました。かと言って、その言

語力というか培ったものをテストで測れるかということ、出来ないですよ。私たちの感覚の中にしか残らないものですよ。

学力低下はトレーニングで解消出来るか?

- γ : 学力低下を解消するために、どういう努力をしていますか?
- α : 私は「自分で勉強しなさい。教員に頼るなよ」と言っ、宿題をどんどん出しますね。「これぐらいは自分でやらないと駄目だよなあ」と嫌味を言いながら。あとは、小テストですね。
- γ : 反復学習、小テスト、宿題といったトレーニングだけで、自分で考える力、自分で発想する力が身に付くでしょうか。表現する力は、表現の練習をすれば付くかもしれないですけどね。
- δ : 何かきっかけになればという程度でしかないですよ。最終的には、自分で勉強していくしかないですよ。
- γ : 結局、きっかけとか入り口ですよ。ある程度こちらから強いる、トレーニングをさせるとか反復させるというのは、下地や入り口を作るための最初のもの。トレーニングもしないで、発想する力というのはなかなか付かないですよ。例えば、九九なんか知らないで、その後の発展的な話なんてなかなか出来ないかもしれない。そういう基礎的な計算が出来るから、その先に発想する力がきつと生まれるのでしょうか。だから、何かを強いるというのが入り口としてはいいのかもしれない。ただ、その先にあるもの、生徒にどういう力を付けさせたいのかが見えるところまで、見せなくてはいけないかもしれない。なかなか、そこまで強いて出来るものではないけど。

【編集部】